

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 20 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26463413

研究課題名(和文) プロジェクト学習とポートフォリオを活用した能力獲得型助産教育方法の開発

研究課題名(英文) Development of midwifery education method utilizing project learning and portfolio

研究代表者

大平 光子(Mitsuko, OHIRA)

広島大学・医歯薬保健学研究科(保)・教授

研究者番号：90249607

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は学士課程における助産学教育に電子ポートフォリオを導入し、助産学生の教授・学習過程を学生・教員・実習指導者が可視化して共有できる学習支援方法を構築することであった。学生と教員は可視化された学生の課題および課題達成のための戦略とその振り返りに関する記述内容を共有することが可能になった。更に、ポートフォリオは、助産実習場面における、学生自身の成長過程での「気づき」に関する変化を可視化した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research was to introduce electronic portfolio into midwifery education in the bachelor's program and to construct a learning support method that students, teachers and practical instructors can visualize and share the teaching-learning process of midwife students.
Students and faculty members can share descriptions on visualized student tasks and strategies for achieving them and their reflections.
In addition, the portfolio visualized the change in "awareness" in the student's own growth process in the midwifery practical scene.

研究分野：看護学(生涯発達看護学)

キーワード：助産教育 能力獲得 ポートフォリオ

1. 研究開始当初の背景

看護実践能力育成のような確かな能力の獲得を目指す学修過程では、Project based learning PBL (以下、プロジェクト学習)の活用が注目されている¹⁾。また、プロジェクト学習は、学修過程を可視化するポートフォリオを活用することにより、その効果が増すことが知られている²⁾。看護基礎教育においても、到達目標の達成過程と成果を明確にして評価できるポートフォリオの有効性が示唆⁴⁾されている。

しかしながら、わが国の学士課程で行われる助産教育においては、看護および助産実践能力の獲得に向けた学生の主体的学修過程や目標達成状況を評価し得る、教育方法はまだ十分に確立されているとは言えない。助産教育現場では、分娩数減少や周産期医療の集約化の影響を受けて、学生は遠隔地に分散した実習施設で1人か2人で実習をしている現状である。また、教員は遠隔地の実習施設を複数担当している場合が多い。本研究で活用するクラウド型ポートフォリオは、アクセスできる環境さえ整えば、学修過程を多地点で同時に可視化および共有することができる。いつでも、どこでも<学生間の学修の共有>、<学生 指導者 教員3者間の教授学修過程の共有>、<指導者 教員間の指導内容の共有>および可視化が実現する点で、今後の保健医療系の教育現場で有用かつ汎用性は高いツールとなり得る。

そこで、本研究では、学生の主体的な学びを支え生涯に渡って持続可能な自己教育力を涵養することを目指して、助産選択科目の学修開始時期から、助産実習終了までの期間にポートフォリオを活用することによって、看護および助産実践の基礎的能力獲得という目標を見据えて自己の現状を適切に捉え、目標達成状況のリフレクションを繰り返す持続可能な自己教育力を涵養する能力獲得

型助産教育方法を開発することを目指す。

また、クラウド型ポートフォリオの利点を生かし、遠隔地かつ多地点で実習を行う助産学生の学修過程を学生 - 実習指導者 - 教員が同時に可視化し共有できる、学修支援方法を構築することを目指した。

1) 鈴木敏恵：看護師の実践力と課題解決力を実現する ポートフォリオとプロジェクト学習, 医学書院, 2011

2) 八重樫文：プロジェクト学習 (PBL) の授業設計・実践における背景理論と評価, 立命館高等教育研究, 11号, 2011

3) 学士課程教育の構築に向けて (答申) 中央教育審議会平成20年12月24日報告書

4) 唐澤由美子他：達成事項を記録した ポートフォリオ評価, Quality nursing 評価, Quality nursing, vol.9.no.6, 2003

2. 研究の目的

本研究の目的は学士課程における助産教育に、クラウド型ポートフォリオを活用して、能力獲得型助産教育方法を開発することであった。具体的には、助産実践能力獲得の学修過程に、クラウド型ポートフォリオを活用し、助産実践能力獲得に向けて、学生が目標を見据えて自分自身の現状を適切に捉え、リフレクションし、生涯にわたって、自律的かつ持続可能な自己教育力を支える教育方法を開発することを目的とする。さらに、遠隔地かつ多地点での臨地実習を余儀なくされる助産学生の学修過程において、学生の成長と課題を学生・教員・実習指導者が同時に可視化して共有できる学修支援方法を構築することを目指した。

3. 研究の方法

1) 教授 - 学修過程を学生・実習指導者・教員の3者が同時に可視化および共有できる

学修支援システムの構築

クラウド型ポートフォリオ活用による教授 学修過程を可視化することによる問題点・課題および利点を学生、実習指導者、教員の立場から、利便性・簡便性・安全性を検討した。

2)助産学生の学修過程の可視化

学生が記述した目標達成に向けた現状認識、目標、目標達成のための計画と教員のコーチング内容をクラウド型電子ポートフォリオに蓄積した。電子ポートフォリオ内に蓄積されたデータから個人情報を完全に削除した部分のみを抽出したテキストデータを分析対象とした。

データはテキストマイニングの手法を用いて、電子ポートフォリオ内に記述された教授学習過程に関する単語および文節に分解し、出現頻度、出現傾向、出現のタイミング、学習内容、振り返り内容、の特徴の観点から分類した。

4. 研究成果

1)助産教育における教授 学習過程可視化する学習支援システム

クラウド型ポートフォリオを利用することで、簡便かつ安全に、教員及び学生が教授 - 学習過程を共有および可視化することが可能であった。特に、遠隔地での助産学実習において、複数の教員が学生の学習状況を共有し、学習過程を支援することが可能となった。

計画当初はクラウド型電子ポートフォリオを活用することで、学生、実習指導者、教員の三者間で可視化した学習過程を共有することを目指した。しかし、勤務時間内に実習指導者が電子ポートフォリオにアクセス

して共有するには、操作および勤務時間内における使用には時間的な余裕がない、などの課題が明確になった。

2)助産学生の教授 - 学習過程の可視化

分娩期ケアの目標達成状況に関する分析結果：テキストマイニングの手法を用いた結果（一部）

分娩期のケアに関する学生の振り返りに関する記述を初期（経験例数1～3例）中期（経験例数4～7例）後期（経験例数8～10例）に層別して、振り返り内容の変化を分析した。

初期は、「説明する」「伝える」「わからなかった」などのコメントが多い一方、「考えること」「できなかった」というコメントは少なかった。

中期には他の時期と比較して、「実施/行動」「観察」というコメントが少なく、「考えること」「進行」「予測」「難しい」というコメントが多かった。

後期では、「積極的」「課題」「観察」などのコメントが多く、「意識」や「情報収集」といコメントは少なかった。

コレスポンディング分析の結果、特異値は低い。布置図では、「わかりやすく」「伝える」「妊産褥婦」のカテゴリが近くに位置した。

(1) 助産学コース全体の目標達成状況に関する分析結果（一部）

初期と後期で層別し、コレスポンディング分析を行った。コメントの傾向として、初期は「復習する」「意識する」「考え」「まとめる」「整理」などが多く、後期は「ケア」「アセスメント」「伝える」「行動する」「根拠」「声かけ」などが多くなった。

電子ポートフォリオを使用していない場合との単純な比較はできない。しかしながら、

クラウド型ポートフォリオを活用することで、可視化された学生の課題および目標、目標達成に向けた戦略および計画、実施、評価の記述内容から、学生自身が成長過程を認識し・実感していること、自らの成長を踏まえて、目標・計画の記述内容の変化を認めた。また、目標達成のみでなく、助産学実習の日々の助産実践場面における対象者との関わりや対象者の捉え方、学習過程における率直な「気づき」における変化を認めた。

5．主な発表論文等

6．研究組織

(1)研究代表者

大平 光子 (Mitsuko OHIRA)
広島大学・大学院医歯薬保健学研究科・教授
研究者番号：90249607

(2)研究分担者

村上 真理 (Mari MURAKAMI)
広島大学・大学院医歯薬保健学研究科・助教
研究者番号：10363053

(3)連携研究者

藤本 紗央里 (Saori FUJIMOTO)
広島大学・大学院医歯薬保健学研究科・講師
研究者番号：90372698

船場 友木 (Yuki FUNABA)
広島大学・大学院医歯薬保健学研究科・助教
研究者番号：70582378

(4)研究協力者

福島 紗世 (Sayo FUKUSHIMA)
広島大学・大学院医歯薬保健学研究科・特任助教